議　事　録

会議の名称	岩倉市自殺対策計画推進委員会（令和５年度第３回）
開催日時	令和６年２月６日(火)　午後２時から２時４５分まで
開催場所	岩倉市役所　７階　第１委員会室
出席者	大藪元康委員長　若杉賢司委員　伊藤文委員 檜木治幸委員　清水美和委員　小川美枝子委員 渡邉あけみ委員　松本勇二委員　櫻井逸子委員 健康福祉部長（長谷川忍）　福祉課長（石川文子） 福祉課障がい福祉グループ長（片桐慎治） 福祉課障がい福祉グループ主任（渡邊拓己） 株式会社エディケーション（大野敏秋）
欠席者	櫻井智委員、王子田美樹子委員、渡辺啓司委員
説明者	福祉課障がい福祉グループ（渡邊拓己）
会議の議題	１　あいさつ ２　議題 （１）第２期岩倉市自殺対策計画（案）のパブリックコメント結果について （２）第２期岩倉市自殺対策計画（案）の承認について ３　その他
議事録の作成方法	■要点筆記　□全文筆記　□その他
記載内容の確認方法	□会議の委員長の確認を得ている ■出席した委員全員の確認を得ている □その他（　　）
会議に提出された資料の名称	（資料１）岩倉市自殺対策計画推進委員会名簿 （資料２）第２期岩倉市自殺対策計画（案）のパブリックコメント結果について （資料３）第２期岩倉市自殺対策計画（案）
公開・非公開の別	■公開　□非公開
傍聴者数	０人
その他の事項	なし

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）
１　あいさつ ２　議題 （１）第２期岩倉市自殺対策計画（案）のパブリックコメント結果について 事務局から説明。 ※委員からの意見なし （２）第２期岩倉市自殺対策計画（案）の承認について 事務局から説明。 委　員：今年度の自殺者数が３人とのことだが、自殺死亡率も恐らく６程度になるかと思う。去年が 20.9 と高かったということもあるが、前回話したとおり１年単位で数値を出して評価することは変化の波が大きく難しいと思う。 委員長：第２期計画の自殺死亡率の目標指標は５年間の平均でみるとのことだが、やはり毎年波はある。計画としてはやはり、数値を０に近づけられるように取り組む必要があると思われる。 委　員：先ほど若い世代への支援の目標の項目を変更したという説明があった。周囲の大人にいつでも相談できるか、という項目を指標とすること自体は良いことだと思うが、元々指標としてあった SOS の出し方に関する教育についても、今後も継続していただきたい。 事務局：SOS の出し方に関する教育は継続して実施していく。ただいまご指摘いただいた項目について 50 ページの表の一番上のところが二段に分けて書かれているが、これは小学６年生と中学３年生に対して行う調査の結果を指標にしており、上段が小学生、下段が中学生のものとなっている。この部分について、内容がわかるよう修正させていただく。 委　員：実際に今年度も３人の方が亡くなられているということをお聞きし、やはり自殺対策は非常に難しいことだと感じた。この計画が計画どおりに進むと良い。 委　員：自殺者数を０にすることは難しいと思うが、まずは指標の達成を目指してしっかり取り組んでいただき、１人でも減らせるように進めていただきたい。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）
委員長：第７章にも書かれているが、市や保健所、保健センターがただ取り組むだけではなく、住民の方に関心をもってもらうことが大事になってくると思うので、広報・啓発も含めて計画の推進だと考えて進めていただきたい。 委　員：皆さまがおっしゃるとおり、各課が様々な取組をされており、計画の内容としてはとても良いものになっているので、まずどのようにこの計画を推進していくかが重要である。前回断らない相談窓口というお話があったが、今は各支援窓口がそれぞれ分かれているので、その断らない相談窓口ができて必要な支援が途切れないようつないでいくことができれば、支援の手が困っている方々に正しく届くようになると思う。 委　員：自殺というのは最終的にはご本人の気持ちも影響してくるので、それを数値目標で改善できるように計画を立てる、ということは難しいことだと感じている。最も大事なのはそういった方に早く気づいて見守ることだが、それは遅くても早くても問題が発生するので本当に難しい。そういった気づきや見守りができるような市民の連携、重層的支援体制ができてくると良い。 委員長：その他にご意見等がなければ、この計画案を委員会として承認することとする。今後字句の修正等があれば、事務局と委員長に一任いただくということでお願いする。 ３　その他 事務局：これにて、本日の委員会を終了とする。